

## 平成 25 年度 第 2 回 新潟市立亀田図書館協議会

日時：平成 26 年 3 月 5 日（水）午前 10 時～

会場：亀田地区公民館 講座室 1

### 次第

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 報告事項
    - ① 平成 25 年度の報告  
(資料 1～4)
    - ② 平成 26 年度計画について  
(資料 5～7)
  - (2) 協議事項
    - ① 新規登録者の開拓
    - ② 亀田図書館の特色
  - (3) その他
    - ① 利用者アンケート調査
    - ② 協議会委員の改選について
- 4 閉会のあいさつ

出席者 委員：大橋委員 松葉委員 佐藤委員 倉嶋委員 遠藤委員  
石塚委員 田村委員 村山委員 (計 8 名)  
(欠席：比企委員 星野委員)  
事務局：望月館長 本名主任 真柄主任

傍聴者 なし

■ 平成 25 年度 第 2 回 新潟市立亀田図書館協議会

日時 平成 26 年 3 月 5 日（水）午前 10 時～

会場 亀田地区公民館 講座室 1

（司 会）

皆様、本日はお忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

これより、平成 25 年度第 2 回新潟市立亀田図書館協議会を開催いたします。本日、進行をさせていただきます、本名と申します。よろしく願いいたします。

それでは、まず資料の確認をお願いいたします。皆様にはすでに郵送差し上げておりますが、本日追加でお配りしたものは、次第と資料 2、3、8 が読字等の訂正がございまして、差し替えという形をお願いしたいと思います。

また、教育委員会のほうから生涯学習課からの報告書ということで、皆様に配付するようという指示がありましたので、お渡ししております。資料のご確認はよろしいでしょうか。

本日の会議ですが、比企委員ならびに星野委員から欠席の連絡をいただいております。したがって、本日は出席の委員様は 8 名ということになります。新潟市立図書館協議会運営規則第 4 条に委員定数の半数以上となりますので、会議は成立となりますことをご報告いたします。

なお、会議におきましては、発言を記録させていただいておりますので、ご了承願います。

また、本日の会議は傍聴することができますが、現時点では傍聴者はいらっしゃいません。

それでは、亀田図書館長の望月より、あいさつさせていただきます。

（館 長）

年度末のお忙しいところ、ご出席いただきまして、ありがとうございます。本日は、今年度 2 回目となります。開館以来 1 年ほど経ちまして、利用状況や来年度の予定、それから 3 つほど利用者アンケートをさせていただいた結果につきましてご説明いたしますので、皆さん忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

（司 会）

それでは、これより議事進行は、会長より行っていただきます。佐藤会長、よろしく願いいたします。

（会 長）

では、議事に入ります。まず、(1) の報告事項について事務局から説明をお願いいたします。

(館 長)

資料1から4につきまして、平成25年度の報告になりますので、一括ご報告させていただきます。

まず、資料1です。平成25年4月から今年の1月までの統計になります。オンライン館を中心に出しております。去年との比較表が出ておりまして、見づらくて申し訳ありませんが、概略をご説明申し上げたいと思います。

資料1①の右側の下に「亀田」と書いてありますが、ご覧いただければと思います。貸出人数が6万6,000人ほどです。貸出冊数が約26万冊になりまして、あと2カ月ほどございしますが、30万冊を超えるのではないかと予測をしております、人数も8万人くらいになるのではないかと見ております。

1月の区報に、亀田図書館は市内で3番目ということで紹介されていたかと思いますが、1番が中央図書館で約100万冊を超えて105万6,000冊、1日あたり約3,800冊ほどで、人数にしますと、2万8,000人で1日あたり1,000人ほど来ております。規模が大きいので、多くの利用者から利用いただいています。2番目が坂井輪図書館で、2枚目のところに書いてあります。約24万冊の貸出がありまして、1日約1,074冊で、人数にしますと1日300人ほど来ております。それに続きますのが、1枚目にある亀田図書館になります。総冊数では坂井輪を越して約26万冊ほどです。1日平均では、1,038冊で1,000冊を超えております。貸出人数の1日平均では266人という数字になっております。1日平均ではまだ坂井輪のほうが上になっておりますが、坂井輪図書館は1月から改修工事で休館になっておりますので、その辺を加味してご覧いただければと思います。

続きまして、地区図書室の統計を見ていただきます。資料1②になります。「豊栄」、「中央」、その次に「亀田」があるかと思いますが、そこが地区図書室の統計になります。「大江山」になります、総人数で1,142人ということで、約1日14人。冊数にしますと3,400冊ということで、41冊の1日の貸出冊数です。「曾野木」は、総人数3,400人で1日あたり22人で、1日平均55冊の利用になっております。「両川」になりますが、616人ということで、1日平均5人で、冊数にしますと1,600冊で1日平均13冊になります。その隣「横越」は4,400冊です。1日平均15人ほど来ております。1万2,000冊の貸出で1日平均41冊の利用状況になっております。

去年との比較は出ておりませんが、大江山が若干増えております。距離的に遠くなったというせいもありますが、あとは曾野木、両川、横越につきましては、亀田がオープンした関係がありますので、ほんの少しですが減っております。あと、2月、3月ありますので、また新年度になりましたら、詳しいご報告を申し上げたいと思います。これが資料1の説明に

なります。

続きまして、資料2「亀田図書館の利用状況 平成25年度」になります。差し替えをさせていただきますので、そちらのほうをご覧いただきたいと思います。去年の4月から1月までの比較表になっておりまして、その下の欄に平成24年度10月から3月の1日平均の比較で見ただけならばと思います。先ほどの大きい表につきましては、平成24年度が旧亀田図書館の統計が入っていたり、休館があったりして比較しづらいのですが、こちらのほうが比較しやすいということで説明させていただきます。

「入館者数」ですが、平成24年度10月から3月が1日平均472人だったのが、今年度は517人ということで10パーセントほど増えております。「貸出人数」も同じように1日平均241人から266人ということで、同じく10パーセントほど増えております。それから、「CD」、「DVD」につきましては、ある程度落ち着いたということで若干減っております。「返却冊数」ですが、901冊から1,030冊ということで、こちらも増えております。「予約冊数」も106冊から126冊ということで、これも約20パーセント近く増えております。「登録者数」につきましては、こちらもある程度落ち着いたということで、1日平均12人から7人と、5人ほど減っております。それから、インターネットが使える「情報コーナー」の利用が若干増えておりますし、「AVブース」につきましては、ある程度落ち着いたということで1日平均1人くらいになっております。「配架書架整理・ボランティア」は、1日平均で2人、また「ボランティアによるおはなしのじかん」につきましては、12から13人の利用、とほぼ前年と同じような人数で推移しております。

それから、江南区文化会館全体の利用状況ですが、4月から1月までの総計で、4施設合わせて20万8,000人の利用があるということです。そのうち、図書館の利用者が62パーセントということで、文化会館全体のかなりの部分を図書館で占めているということが、ご覧いただければわかると思います。

続きまして、資料3になります。平成25年度はまだ終わっていませんが、事業報告ということでさせていただきます。まず、1番「おはなしのじかん」ですが、「ボランティアによるおはなしのじかん」は、のべ256人の方に参加いただき、20回で3団体にご協力いただいて実施いたしました。また、去年の9月から「職員によるおはなしのじかん」を、毎月1回実施しまして、のべ59人ということで、毎回10人くらいの方からご参加いただいております。

「読書週間事業」ですが、春の事業として「むかしがたりを楽しもう」、「おススメの本をしょうかいします」、開館1周年記念事業から読書週間事業に訂正させていただきました、「なじらね？この本」ということで、全市の取組みになりますが、実施させていただきました。

「夏休み事業」として、「紙つばめをつくってみよう」、「つくってあそぼうかみしばい」と

いうことで、二つの事業をさせていただきました。

「開館1周年記念事業」ということで、11月2日「ボランティアによるおはなしのじかんスペシャル」に3団体から協力いただきまして、48人の参加ということで実施いたしました。また、「蒲原宏氏講演会」ですが、11月10日に61人ということで実施いたしました。「展示会」では、4人の生誕120年記念展ということで、2階のコレクション室で実施いたしました。また、10月27日に実施した「保存期限の切れた雑誌をお譲りします」は、61人の方の参加がありました。

5の「テーマ展示」は、「一般閲覧室」、「子ども図書室」で、6つずつのテーマでやらせていただきました。各回好評で、利用数はつかめていないのですが、かなりの利用があったと見込んでおります。

「配架・書架整理ボランティア」ですが、去年に引き続き協力いただきました。休館日の金曜日を除く朝の9時から10時まで協力いただいたのですが、登録者は16人ということで多いのですが、月1回参加される方とか、いろいろな方がいらっやいまして、毎回2人くらいの参加があります。

7の「体験学習・ぷれジョブ・施設見学」ですが、「体験学習」は、4つの中学校、曾野木、両川、大江山、横越から参加いただきました。「ぷれジョブ」なのですが、毎週土曜日に、配架・書架ボランティアとして、半年交代になります。10月で交代していただきましたが、のべ2人参加いただいております。児童の「施設見学」では、2つの小学校、亀田西小学校と秋葉区の結小学校の生徒さんが見学に来られております。

8の「施設見学」は、田上町長も来られましたが、6回で62人の施設見学があったということです。以上が事業報告になります。

引き続きまして、資料4の「市長への手紙」、「図書館へのたより」の報告をさせていただきます。まず、「市長への手紙」なのですが、これは直接的には中央図書館へてに出されたものですが、内容が亀田図書館のものでしたので、ここに掲載させていただきました。意見としては、棚の歪み、隣の本が倒れる、見通しがきかないということで3点のご指摘をいただきました。

回答ですが、棚につきましては検討、ブックエンドにつきましては増設、見通しがきかないことにつきましては、見回りということでそれぞれ回答させていただきました。その後、1番の棚の歪みにつきましては、2月の蔵書点検期間中、たわみの部分の板を少し厚くしまして全部取り替えを終了いたしました。隣の本が倒れる事につきましては、順次ブックエンドの増設をいたしまして、少しずつ改善しております。見通しがきかない件ですが、これは書架を低くしないと改善できませんので、かなり難しいと考えており、見回り等で対応し

ております。

「図書館へのたより」ですが、17件いただいております。内容は一つずつは申し上げませんが、「開館時間を延長してほしい」や、特に多いのが「学習席を増やしてほしい」という要望、個別に「リクエストや予約について」のたよりがいくつか寄せられております。対応ですが、開館時間の延長につきましては、今後の推移を見ないといけないのですが、利用実態としては、午後6時くらいまでの利用が多く、その後利用が少し減りますので、今までどおりの開館時間は午後7時までということで対応したいと思っております。中心館が午後7時、中央図書館および生涯学習センターが午後8時ということで対応しておりますが、亀田だけの問題ではありませんので、今後の推移を見ての対応になります。

また、学習席の問題なのですが、亀田図書館、文化会館を含めて、これ以上施設的に増設が難しいということから、かなり難しい問題です。対応としましては土日を中心に利用が多いものですから、公民館の空き状況を見ながら、部屋を借用して対応するようなこともしておりますし、譲り合って利用いただくことになると思っております。全体で、亀田図書館としては40席ほどあるのですが、試験期間、夏休み期間など、満杯になるような状況もありますので、公民館の空き状況を見て対応していくことになると思います。個々のリクエスト、予約等の問題につきましては、予約カード等を出していただくような掲示をいたしました。

以上が報告になりますので、よろしく願いいたします。

(会 長)

では、事務局の説明で、質問や意見があればお願いいたします。ただいまの資料1から4までの報告説明で、特にご質問がなければ、次へ移らせていただきます。

では、引き続き、説明をお願いいたします。

(館 長)

引き続きまして、平成26年度の予定ということでお話をさせていただきますが、資料5から7まで説明させていただきたいと思っております。

まず、資料5ですが、「亀田図書館の運営方針と主な取り組み」ということであげさせていただきます。平成25年度とほぼ同じような状況で取り組みたいと思っております。平成25年度、新規事業がいくつかありましたので、平成26年度も継続していきたいと思っております。上に囲った部分は全体の運営の理念、図書館像、それから運営を目指してということになりますので見ていただければと思います。

「新潟市の目指す図書館像」ということで、1「ネットワークを活かした『課題解決型図書館』」ということで、亀田図書館はレファレンスを充実したいということであげてあります。2番目「特色ある地域づくりに寄与する『分権型図書館』」ということで、3つあげてありま

す。一番下は「俳句資料の積極的な整理と収集（新規）」になりますが、これは継続ということで訂正をお願いいたします。

3「子どもの読書活動を推進する『学・社・民融合型図書館』」ということで、5つあげております。「ブックスタートの実施」、これは職員が今、カウンターのほうが手一杯でなかなかできていない状況でして、平成26年度は3箇所ありますが、なるべく行ければと思っています。それから、「おはなしのじかんの実施」、「読書週間事業の実施」、「公民館や郷土資料館との共催事業の実施」ということで、これもカウンターのほうが手一杯でなかなかできないのですが、なるべく折に触れて話し合いをしながら実施していきたいと思っています。「ふれジョブや職場体験の受入」ということで、平成26年度も引き続き受け入れをさせていただきたいと思っています。

「市民参画と協働を推進する『パートナーシップ型図書館』」ということで、3つあげております。「図書館協議会の定例会（年2回）の実施」、「配架・書架整理ボランティアの受入」、「公民館や郷土資料館への資料提供や情報提供」ということです。

「効率的、効果的な運営を目指して」ということでは、「施設の整備と管理運営」、「資料・情報の収集」、「図書館広報の充実」、これが「広報紙の発行（年4回）」ということで、「かめだ図書館だより」を今年度もう1回発行して年4回になりますが、平成26年度も引き続き年4回出していこうと考えております。また、「職員研修の充実」ということでは、「各種研修の参加」となります。

「各館の特色」としまして、このあと協議事項で出させていただきますが、「特別コレクション室を活用した展示や講演会の実施」、「俳句資料の整理と収集」ということでやっていきたいと思っています。

資料6「平成26年度 亀田図書館 資料購入費 当初予算（案）」につきましては、担当から説明させていただきます。

（事務局）

それでは、資料6について説明いたします。来年度の予算につきましては、現在議会で審議中でございますが、（案）ということでお示ししてあります。中央図書館のほうで新潟市全体の図書館の予算を管理しておりまして、それぞれの館にそれぞれの機能、貸出割合、収容冊数を勘案いたしまして配分という形をとっております。

亀田図書館につきましては、今年度と同額で来年度も資料購入費は、1,257万5,000円となります。今年から地区図書室が亀田図書館に管理替えとなりましたので、予算計上をしておりますけれども、今年度135万3,000円のところ、来年度は地区図書室の資料購入費が若干増ということで140万9,000円予算を予定しております。そうしますと、合計で平成26

年度亀田図書館の管理する予算といたしましては、1,398万4,000円となります。新潟市全体の平成26年度の図書館の資料費の総額につきましては、1億7,931万5,000円となっておりますので、亀田図書館の比率にいたしますと7.8パーセントとなっております。以下、それぞれの中心館の館内の予算の比率を計上しておきましたので、参考までにご覧になっていただければと思います。

なお、これ以外に図書館の管理費ということで、臨時職員、あるいは事務用の消耗品等、管理費がございますけれども、それにつきましては、今年度と同様に予算化は別にしていくところであります。以上です。

(館長)

資料7「平成26年度事業(案)」になります。これは、平成25年度の事業をほとんど引き継ぐような形になっておりますが、全部で6つあります。

まず、「おはなしのじかん」ですが、「ボランティアによるおはなしのじかん」は引き続き、第1と第3土曜日に実施していただこうと考えております。また、昨年9月から始まりました「職員によるおはなしのじかん」は、毎月1回ですが、これも継続して第4日曜日に実施したいと考えております。

次に「読書週間(春・秋)」でございますが、「ボランティアによるおはなしのじかんスペシャル」として春と秋の2回を予定しております。「おすすめの本をしょうかいしてください」は、春の「こどもの読書週間」に実施したいと考えています。「昔ばなし(ボランティア)」ですが、春の「こどもの読書週間」と、「秋の読書週間」、今年は実施していませんでしたが夏休みもできればお願いしたいと思っています。また、「文芸講座あるいは講演会」なのですが、去年、おととしと蒲原先生から2回講演をいただきましたが、蒲原先生も「そろそろいいのではないか」ということをおっしゃっておいりましたので、平成26年度は別の講師か、あるいは文芸講座ということで実施させていただこうと思っています。「保存期限の切れた雑誌をお譲りします」につきましては、今年度に引き続き、秋の読書週間に実施したいと思っています。これが、読書週間事業です。

「夏休み向け行事」ですが、平成26年度は「体験しよう図書館のしごと(仮称)」ということを実施したいと思っています。

「配架・書架整理ボランティア」ですが、これも引き続き、金曜日を除きまして朝の1時間やっていただこうと思っています。

「テーマ展示」ですが、これも平成26年度は「テーマに沿った資料を展示」を2カ月から3カ月に1回更新したいと思っています。

最後に「その他」として、「かめだ図書館だより」年4回発行したいと思っています。



平成 26 年度も今年度と同じような形で引き続き、事業を実施していきたいと思っています。以上です。よろしくお願いします。

(会 長)

それでは、ここまで資料 5 から 7 まで説明していただきましたが、事務局の説明で質問やご意見があればお願いいたします。

(大橋委員)

予算ですが、実質消費税の分、減と考えたらいいのでしょうか。

(館 長)

シーリング等、枠配分がございましたので、その中でやりくりということになります。吸収しなければいけないということになるので、実質減という形にならざるをえないです。

(松葉委員)

ブックスタート事業が始まるとなっていますか。

(館 長)

ブックスタート事業ですが、今年度から亀田で引き受けることになっていたのです。

(松葉委員)

平成 26 年度の、どれがそれに当たるのか。これの中には入っていないのですか。

(館 長)

今年度、4 月に横越に中央図書館の関係で一緒に説明会に行かせていただき、1 月に曾野木と、実質 2 回ほどしか行けなかったのです。先ほども利用状況の中に説明させていただいたのですが、亀田の利用がものすごく増えておりまして、土曜日で 450 人前後、日曜日で 350 人から 400 人、平日で 300 人ということで、ものすごくカウンターに職員を取られまして、なかなかブックスタートのほうに行けない状況になっております。今年 2 回行ったのですが、新年度は職員体制にもよりますけれども、厳しい状況にはあるということで説明させていただきます。事業の中に入れていなくて申し訳なかったのですが、できれば行きたいと考えております。

(松葉委員)

追加で質問してよろしいですか。不勉強で申し訳ないのですが、ブックスタート事業の内容を教えてくださいたいのですが。

(館 長)

1 歳児歯科健診が健康センターで、亀田、横越、曾野木の 3 か所でやっているのですね。亀田につきましては、毎月やっているのですが金曜日を実施している関係で、亀田図書館は金曜日休館日のため、職員はいませんので、中央図書館が行っているという状況になります。

曾野木と横越は2か月に1回ずつになります。曾野木がある月と、横越がある月ということで、実質は月1回行くことになるのですけれども、1歳児歯科健診が終わった方に「おはなしのへや」を準備をさせていただいて、ボランティアさんからお話をさせていただいています。絵本を用意してありまして、1冊ずつプレゼントしている状況です。地域のボランティアさんから協力いただいて、職員は誘導、会場の設営、ボランティアさんとの打ち合わせ等させていただいている状況です。

(館長)

石塚委員、何か補足があったらお願いします。石塚委員からも参加いただいておりますので。

(石塚委員)

ブックスタートについては、館長さんが説明されたとおりです。平成23年度から始まって3年目になっています。

(会長)

では、ほかに質問がないようであれば、次の「協議事項」に移ります。事務局からお願いいたします。

(館長)

協議事項を2つあげておりまして、全館的な課題でもありますが、新規登録者の開拓ということであげさせていただいております。貸出自体は亀田図書館はかなり増えておりまして、冊数自体はあるのですが、なかなか登録者が増えてこない。全市的にも人口の2割弱という状況になっておりまして、亀田図書館は古いところから移ってきまして、それなりに利用はあるのですが、なかなか急激には増えてこないということで、皆さんからいろいろなご意見をいただいて、参考にさせていただければなということであげさせていただいております。

先ほど、利用状況の中でお話申し上げましたが、なかなか貸出が多くて、カウンターのほうに張り付いております。平日、土日含めまして、なかなか外にPRに行けないという状況があります。それを何とか打開する方法があればなということで、ご意見いただければと思っております。

2番目は、1が終わってから説明したいと思いますので、1の新規開拓者の、いい意見は出てこないかもしれませんが、有用な意見がありましたら聞かせていただければと思います。

(会長)

新規登録者の開拓につきまして、ご意見があればお願いいたします。

(石塚委員)

今、ブックスタートのお話が出たのですが、ブックスタートのときに赤ちゃんでもカード

をつくることができますということでお話をさせてもらっていると、上のお子さんがいらっしゃる方は、「もう作らせてもらいました」というお話があったり、すぐ「これから行きたいと思います」ということで、小さいお子さんのお母さんがカードを作りたにいらっしゃると思うのです。そのところで、だいぶブックスタートのほうも浸透してきていて図書館利用の意識はあるのですが、上のお子さんでブックスタートを経験された方が、昨日も横越でブックスタートがあったのですが、質問されるのは「本をもらっても、それをどう活用していいかわからない」と、ただ本をもらっても、それを「どう読み聞かせたらいいかわからないのです」とおっしゃる方が何人か毎回毎回いらっしゃるのです。「こういうふうにすればいいですよ」と言って私たち、読み聞かせと言って、本を読む勉強をしているのではなくて、「コミュニケーションツールで、おもちゃの延長線です」ということで、「お子さんが聞くとか聞かないとか、分かる、分からないではなくて、言葉の響きだとか、そういうものを共有するのです」とお話をしたりとか、かじったり、切ったりということもありますが、素材を共有するというので、「まず本とお友だちになるためのものなのです」とお話をさせてもらっているのですが、楽に、私たちがこうやって読み聞かせをするものですから、お家でもそうやって読まなくてはいけないと思われたりするもので、そうではなくて、お家では膝の上とか腹ばいになって自由スタイルでいいのですというお話もさせてもらっているのですが、配ったあとのケアが図書館に来ていただけるような、そういうことができればもっと口コミでカードが広がったり、足を運んでいただいて借りるということも増えていくと思うのです。

ただ、先ほどのアンケートを見ると、「子どもの声が」とか「走って」というところがあると、そのところはちょっと難しいかなというので、あと、ほんぽ一とでも課題になっているのですが、お知らせのところ「小さいお子さんも図書館を利用します」ということを、一般の方に知っていただきたいと思うのです。静かなところで読みたいのもあるのですけれども、小さいお子さんも、これだけ本があると嬉しいという気持ちも分かっていたかといいなというので、難しいとは思いますが、できれば、この時間はお子さんが読みに来ていますとかいう表示があるとか、今日は小さいお子さんがいらっしゃる日というエリア分けみたいなものがあると、子育て中のお母さんも図書館に来やすいかなと思ったり、ここの時間以外のときには、お子さんに、ちょっと今は静かにしようねというものもあるのですけれども、そこら辺もないと、カードは作るけれども、その後が続かなかったり、本をもらってもどうしていいかわからないという現状が続くかなと思いました。

(村山委員)

今の石塚委員のお話なのだけれども、本をもらったあとのケアと言いましたよね。図書館というのは、赤ちゃん用の図書というのは相当あるのですか。どれくらいあるのですか。相

当多いですか。

(館 長)

コーナーに置いてあります。

(村山委員)

この資料を見ると去年の実績を見ると1か月平均187人の人が亀田図書館に来ている。その中に赤ちゃん用の図書を何人くらい借りているのか分かりますか。

(館 長)

データの的に年齢別統計が出ますが、今はちょっとはつきりは言えません。

(村山委員)

けっこうあるわけですか。

(館 長)

亀田は多分、利用が多いと思います。

(村山委員)

ここはけっこう広いですね。あの中に占める赤ちゃんの本はけっこうあるのですか。

(館 長)

あります。何パーセントとはなかなか言えませんが。

(村山委員)

私が来て見ているのだけれども、あまり赤ちゃんを連れて来ている利用者はないのだけれども。幼稚園へ行く子は見ているのだけれども、赤ちゃんを連れてくるのは。

(館 長)

時間帯にもよると思いますし、公民館の講座で、そういう講座がありますので、それを終わった方が寄られて行きます。

(事務局)

講座のある曜日のお昼くらいになると、その講座帰りに寄っていく方がかなりいらっしゃいます。

(館 長)

おぶったお母さん、多いです。

(村山委員)

本自体はあるわけですね。

(館 長)

あります。

(村山委員)

私はあまり見たことがないので、分かりました。

(大橋委員)

江南区文化会館の利用状況の6割が図書館ということですが、逆に言うと4割が図書館を利用していないので、来た方にアピールするというのがあると思うのですが、例えば、私も自分でカードを作るまで分からなかったことは、このカードは市内全部の図書館で使えることと、どこで借りて、どこで返しても良いということ、どれだけ市民が知っているかとなると思うので、その辺もうちょっとアピールして、ここでも作れますと言って、来た人を誘い込めば20万人で4割ですから、かなりの数がかめそうかなと思います。

(館長)

新年度検討しないといけないのですが、特に文化会館で催し物があったあと、これは全市から来ますので、文化会館ホールを利用して帰りに寄られている方も、新規で登録している方が何人もいらっしゃいます。PRの仕方、公民館と文化会館、郷土資料館がありますので、案内の仕方に工夫がいるかもしれないですね。

(村山委員)

あとで出てきますけれども、この調査を見ると図書室では、大江山と曾野木が亀田図書館にあまり来ない。両川と横越は来る。また大江山は石山に、曾野木はほんぽーとや鳥屋野に行く。この人たちを何とかこっちへ向けるという一つの方策と、もう一つは私の友だちの中でも、文化会館の中に図書館があるのかと結構言われるのです。あそこは音楽とかやっているばかりで図書館はあるのか？という人がいまだにいます。ここのPRをもうちょっとやったほうが。確かに図書館は中心図書館になって、ほかの図書館に比べれば人間は少ない。ほかのところは6人いる、ここは3人。そういう意味では人手はかけられないから、人手に替わるものを何か。ポスターなのか何なのか分からないけれども、そういう媒体を利用して、もうちょっと駅でもどこでもポスターでも貼ったらどうですか。知らない人はまだいますよ。

(館長)

課題になるかと思うのですが、ここは4つの施設があって、文化会館という名称が頭にきていますので、PRも必要と思います。

(村山委員)

亀田図書館にしておけばいいのではないのでしょうか。そういう人もいますので、気にかけてください。

(事務局・館長)

場所が分からない人というのもけっこうありますので、どうやってPRするかが課題です。

(村山委員)

ネックですよ。まちの真ん中から来る人にとっては。

(館長)

バイパスが二つありますので、そういう面では車で来られる方は非常にいい場所ではあると思うのです。その関係で利用がだいぶ増えていると思うのですね。

(村山委員)

だからそちらはプラスのポイントなのです。僕みたいにマイナスのポイントは、歩いて来る人と、自転車の人はネックなのです、ここは。

(館長)

遠くなっていますからね。

(村山委員)

4つの図書室の人たちで車を持っている人は来られるけれども、車を持っていない人は来られないですよ。バスに乗って行っても、横バスと区バスはあるけれども。

(館長)

便は悪いですね。

(村山委員)

大江山から横越から、車のない人来ますか。

(館長)

なかなか来られないですね。

(村山委員)

石塚委員、来ますか。車のない人が。

(石塚委員)

そこは課題です。

(村山委員)

車のない人が来られるかなと思って。

(松葉委員)

質問と意見になりますけれども、今のお話を聞いて、ちょっと疑問に思ったのをお聞きします。もう職員が手が足りないと言っているわけですよね。でも増やしたいのですよね？そこが私は、それはどういうふうに考えていらっしゃるのかな。市の図書館として、利用者が多いのであれば職員を増やしてくださいという方向で、市のほうにお願いをする方向で考えていて、もっと増やしたいということなのか。今の人数でどうなのかという、そこら辺をどう考えて何をされたいかなというのが、ちょっと疑問でした。

もう一つは、登録者数が少ないというのをお話していましたが、私も先生のお話を聞いてはじめて分かったのですけれども、カードを作るとどこの図書館でも借りられるし、どこへ返してもいいというと、私なんか黒埼に住んでいるので、ここで借りて黒埼で返してもいいということになると、それは便利なんだなと、登録したメリットが分からないと、「わざわざ作らなくたって、借りに来るからいいわ」ということになるかなと思いますよね。だから、メリットをはっきりと、これこれが便利ですよということをはっきりアピールして「作りませんか？」ということをごどこかに掲示するだけでも違うのかなと思います。掲示したり、おたよりに出したりするだけで違うのかなと思います。その登録者数も、利用者は多いけれども、登録者数が増えないというのは、亀田地区、江南区の人口に比して登録者数が少ないということなのですよ。

(館長)

そうです。

(松葉委員)

ということは、区全体の雰囲気として、こういう文化的な活動を大事にしようという意識を醸成してほしいということであれば、図書館が単独で動くだけではなくて、区のおたよりとかで、そういうところに働きかけるとか、図書館だけでなく、ほかにもいろいろな文化的な活動を、公民館もかなり一生懸命学校に来てくださっているのですけれども、そういうところとタイアップしてアピールしていく、おたより等を使ってアピールしていけばいいのかなと思います。どちらにしても、博物館、科学館、図書館等の利用が多い家庭は学力が高いという結果も出ていますので、学校としても非常に興味のあるところですが、連携したPR等はいかがかなと思います。

(館長)

まず、登録者の関係なのですが、全市的な課題になっておりまして、政令市の中でも低い値になっているのです。2割弱ということで19パーセントくらいでしょうか。江南区もできたばかりのせいもありますが、低い状況にありまして、全市的な取り組みで登録者を増やそうとしています。亀田の場合、ほかの区と違いまして、比較的大きいものが一つしかないのです。西蒲区は4つもありますので、登録率が当然上がってきます。1館でどれだけ登録率を上げるかということも課題にはなっているのですけれども、さつき村山委員がおっしゃったように、地区図書室を含めて登録率を上げていかななくてはいけないかなということで、課題にはなります。地区図書室は施設のにも小さいので、なかなか登録が上がってこないという状況がずっと長い間あります。登録率を上げられない状況もありまして、亀田自体でどうやってPRしていくかというところで、先生おっしゃったように学校との連携、公民館、

郷土資料館、江南区全体の施設の中での位置付けみたいところで、全体としてどうPRしていくかというのは、かなり課題になってくると思うのです。

先ほどから話が出ていますように、江南区文化会館は4つの施設が入っていますので、連携を強めて、大橋先生がおっしゃったように4割の人たちをどうやって図書館と結びつけていくかということが、とりあえずの課題になるかなと思っています。チラシをまいたり、何とか工夫してやっていこうと思っています。

(松葉委員)

もう一つお願いしたかったのは、先ほどブックスタート事業についてお聞きしました。自分自身が子育てをしたときの実感なのですが、お金をかけないで楽しむ喜び方というのをいっぱい教えられる方法って実はあるのですよね。子どもを育てるときに、図書館に行き一緒に床にごろごろしながら本を読んだりとか、公民館に行き卓球して知らないおばさんに教えてもらったりとか、博物館に行き、こんなものがあるんだとか、私は自然科学館も好きだったので、自然科学館に一日行って、いろいろなことができますよね。休みだからスキーに行こう、休みだから旅行に行こうという、そういう楽しみ方でない子育ての仕方って、日常生活の中に実はいっぱいあるのだけれども、私の実感としては、小学生の子どもの保護者の方々は、楽しむというと旅行する、家族で出掛けるということが楽しみだとらえている傾向が強いと思います。

それを、どこで打破したらいいのかなと思って、学校でもいろいろ言うのですけれども、言葉はタダよとか、無料の楽しみがいろいろとか、おたよりに書いたりとか、お話ししたり、就学時健診で話したりするのですが、さっきの連携というのがそういうところでブックスタートみたいに1歳児、1歳半健診、6か月健診、3歳児健診のときに、図書館だけでなく、せつかく公共の機関で新潟市で大事な、あるいは県の公立の機関なのだから、一緒にタイアップしてお互いに、こういう楽しみがありますよ、ぜひご家族で楽しんでくださいという、ここは図書館協議会なのに、そういうことを言うと悪いのだけれども、みんなで公共機関だからみんなでやりましょうと、小学校も小学校のことだけ考えていると、子どもは良くなり、中学校や保育園や幼稚園と連携をしながら育てていくわけですが、そういう連携をもうちょっとパワーアップして、アピールしていくと、私たちにとっては家庭教育力の向上につながり、とてもありがたいですし、私たちのほうもそれを狙っていますので、いいですよ、いいですよと言って紹介をしていきたいと思っていますので、ぜひご検討いただければありがたいと思います。

(大橋委員)

申し込み用紙をどこでも取れるような状況をつくっておくとか、ここで申し込まなくても、



来た人たちがもらっていただけるような状況をつくっておけば、こんなことを書けばいいのかとか、とりあえず持ち帰って書いて、また次の機会のときに届くかということも出てくると思うので。

(館 長)

中央もやったと思うのですが、チラシのところに貸出の申し込み用紙を付けて、持ってきた方は登録できますということで、ついでのとときにチラシに申し込み用紙を付けるという方法もあるかと思しますので、検討させていただきます。

(会 長)

ダウンロードできるとかというのがあるのですか。

(館 長)

申請用紙ですか。今のところありません。

(会 長)

今の人って、わりとインターネットで調べるほうが早くて、例えば健康観察でインフルエンザのときでも学校のほうで、ホームページからダウンロードしてお医者さんからもらってきてくださいとなっていたりするので、わりとそちらのほうの若いお母さん方にアピールできるかと思います。

(館 長)

平成 27 年度にシステム更新がありますので、担当のほうに伝えますが、検討していると思います。

(会 長)

赤ちゃんを連れていて、出られない人たちって、意外とインターネットの世界のほうにいっぱい入っています。前の打ち合わせでもあったのですがけれども、小学校、中学校単位で申し込み用紙を一斉に配ると、子どもが知ると家庭がまず知ることになって、先生方がまずどこでも返却、貸し出しができる、予約はどこでも亀田で受け取れるとか、パソコンでインターネット予約をして受け取り館も自由に選べるということも、まず情報が入っていないということに驚きました。ということは、小学校でPRすることによって、教師と家庭に広がるということで、ブックスタートでは全員にアピールして借りに来ますということも、上のお子さんがある人は知っているのですがけれども、初めての小さいお子さんを連れて人って、ほかの市から来た人たちも多いので、場所の説明もして、亀田に行ってくださいとPRして、ボランティアとしては努めているのですが、行ってもいいのですかとやはり先ほどのように言われます。行くと、子どもが迷惑がられるから行けないのではないかと。本を投げるのではないかと。でも、税金払っているから、それくらいは勘弁してもらって行ってくだ

さいと。

それから、公共図書館を利用することで、公共ということに子どもたちは慣れていないので、そこでの学びにもつながるからということ、一応若いお母さんにそうアピールします。でも、逆に一般の人たちに対しては、お子様がいる図書館ですので、そこも少し我慢してくださいというのを、それぞれのPRの仕方を変えてやってはいかがでしょうか。

(村山委員)

それに関連して先生に聞きたいのだけれども、学校は学校図書館ありますよね。子どもたちに学校の図書館の在庫というか蔵書を見せて、借りさせているよね。それじゃなくて、公共の亀田図書館へ行きなさいということをお願いしているのですか。子どもはあまり、中学生が高校受験のために来るというのはけっこう場所をふさいでいるのですけれども、小学校、中学校の子はあまり。私は1週間に1回本を借りに来ているのです。

(松葉委員)

小学生の場合は、あるということは知っています。

(村山委員)

先生のところは遠いですから、あれだと思っただけけれども。

(松葉委員)

ここに図書館があるということは、たぶん学校はどこでも教えているはずなので、小学校は特に公共施設の勉強もありますから、江南文化会館の中に亀田図書館があるということは知ってはいます。知ってはいますが、たぶん欲求としては学校図書館の中でかなりの量を借りているのですよね。

(村山委員)

どれくらい蔵書を持っているのですか。

(松葉委員)

蔵書数までは分らないです。

(石塚委員)

児童数に合わせて、掛けるいくつで置きなさいというのが決まっています。

(松葉委員)

新潟市の場合は、きちんと司書を入れてくれているので、司書がみんな管理をして子どもたち、大淵小学校の子どもたちは昨年度は新潟市内で一番貸出、一人あたりの借りている冊数が多かったのです。そういう学校の中の図書館だけでかなりの量を借りて、ほぼ毎日朝読書をして、読書に関しては充足されている状況があり、しかも大江山地区はここから遠いので、ここに来るよりはほぼ学校で充足されています。

(村山委員)

充足されていると、大江山図書室には行かないということですね。

(松葉委員)

そうですね。多分、もっと行ってもいいのかなとは思いますが、子どもは子どもなりに忙しいというか、中学生はもっと忙しくて、部活があるとほとんど土日もしないので、図書館に行ってというと、受験勉強のためということになります。

(村山委員)

受験勉強の人は来ないですね。

(松葉委員)

さっきの子どものもも、私も、うーんと思いつつながら、子育てする身としては寄せてもらうとありがたいのだけれども、静かに勉強したいという。

(村山委員)

これを見ると、子どもは来ないのですよ。私は66歳だけでも、60歳代ばかりなのです。たまたま横越の図書室が、どういうわけかあとで聞きたいのだけれども、10歳代の方がトップなのです。ほかはみんな60歳代なのです。

(館長)

それは、ちょっと遠いためです。

(村山委員)

学校が近くにあるのでしょうか。

(館長)

それもあります。亀田はちょっと遠いというのがありますが、学校帰りに低学年の子は来ます。

(石塚委員)

蔵書の内容もあるのです。横越も前は大人の方の本が多くて、子ども向けの本が少なかったのです。学校の図書室のほうも、私たちのグループ、朝読書に入らせてもらっていて、PTA活動もさせてもらっていたので、リサイクルバザーの売上げを図書館のほうに回したり、とにかく蔵書が少なかったので、子どもたちが図書室に来ないのは当たり前だという感じで、協力体制で蔵書を増やしたり、冊数を増やしたりして、校内で子どもたちが見たい本が見られるような、本当に先生がおっしゃるように満たされる体制になってきていて、公民館に行っても、自分たちが読む本よりも大人の本が多かったり、あとはブックスタートレベルの未満児さんの小さいお子さんの本があったりという感じになっているので、利用者の層が違いかもかもしれません。

(村山委員)

これ、すごいですよね、横越。

(石塚委員)

公民館の中に図書室があるので、それこそ講座が無ければ部屋を開放したり、ホールを自由に使って良しとしているので、学習体制の保証もしているのです。子どもたちが行くと目に入るので図書室にも寄る。入り口に図書室があつて奥に学習室があるので、その行き帰りのところで寄っていったり、「おはなしのじかん」というのがあるのですけれども、その時間外でも、私たちボランティアが出入りしているときには、子どもたちとお話をしたり、本の紹介を口コミでしたりという日常的な交流があるので、子どもたちが来るのだと思います。

中学生も懐かしがって、小学校で6年間読み聞かせをしているので、私たちがいると懐かしがって図書室に入って来てくれて、そして中学生がまた小学生に、この本おもしろかったよという世代交流みたいなものがあつたりしています。でも、逆に高齢の方が読んでいて、子どもの出入りが多すぎて、うるさいという苦情もいただいています。

(村山委員)

横越を見ると、43パーセントが10歳代ですからね。

(館長)

そうですね。それと開室時間の問題があります。公民館の時間帯に合わせて開館しています。年中無休まではいきませんけれども。

(村山委員)

そういう特異性があるわけですね。

(石塚委員)

夜もやっているのです、部活の帰りに中学生も寄ることができます。

(村山委員)

今、松葉先生から教育ビジョンのようなお話をちょっと教えていただいたのだけれども、ようするに金のかけない文化、担い手が図書だと、僕も同感なのだけれども、ちょっと私事で悪いのだけれども、亀田の真ん中に住んでいたのです、役場の近くに住んでいるのですけれども、昔図書館があつちこち動いたのです、亀田図書館が。でも、小学校、中学校の時に図書館が亀田小学校にはありました。あつたのだけれども、量が少ないし、自分が読みたい本があまりなかったのです、それで亀田図書館にはよく行っていたのです。亀田図書館はあつちこち動いたから、役場だとかお宮の中とかあつちこちに。それでも受験もあつたけれども、中学校のときも図書館によく行っていたのですよ。たまたま近かつたから。学校の先生も言っていました。図書室はあんまりないのだと。図書室へ行けど。でもあまり無かつ

たです、はっきりと。そういうことをもうちょっと先生方も図書室へ。松葉先生はタダだからと言っているけれども、それと同じように図書室は公共だからタダですからね、今はDVDもほかで借りれば金がかかるのに、タダで貸してくれるから、それと同じように本もタダですから、ここへ来てくれればね。たまたま大淵はバスで来いと言っても難しいけれども、そういうことをアピールできれば、少しでも登録者数は増えるのではないかと。

(松葉委員)

多分、小・中学校は新潟市の施策として、学校図書館の充実を挙げているので、かなり蔵書数が昔に比べると増えているのです。増えていて、多分、たぶん中学校もそうですよね。書架がガラガラの写真もありますけれども、そういうことはほとんどなくて、常に毎年新刊図書が常時あって、しかも司書がいるので、子どもたちのニーズをつかんで先生方と子どもたちのニーズをつかんで年何回かに分けて新刊図書を入れて、紹介のコーナーをつかってやっているのです、図書館は非常に充実しています。他の市町村から比べると、本当に羨ましがられますよね。

ですから、小・中学生を増やそうと思うよりも、小・中学生は学校で充足していても、私はいいのではないかなという気がします。図書館の中で、図書館に来たときには黙って静かに読むとか、人に迷惑にならないように過ごすというのも大事な文化かなと思いますので、小さい子どもさんが来て、わーわーとやる場所はやる場所で、またそのスペースは確保しておかなければならないと思いますが、静かに読みたい人、静かに学習したい人が居る場所は居る場所として確保し、小・中学生は学習の中で、ここには必ず関わることになっているので、図書館に来るといっても、文化の総体としての江南文化会館の公民館だとか郷土資料館と一緒に、こういう素晴らしい公共の建物が江南区にはあるんだよということで分からせるということに。

(村山委員)

教えるということね。私は感じたのだけれども、学校の図書については我々に任せてくれという意味ですよね。だから、公共の図書館はいいと。学校の図書館で頑張ってくださいからという感じですよ。

(松葉委員)

そういうわけではないのだけれども、どう言ったらいいのでしょうか。

(村山委員)

このアンケートで、教育ビジョンの中のアンケートの中で施策として読書を挙げているのです。私はそこに丸をくれたのだけれども、そういうことで増えていっているわけですよ、教育ビジョンは。

(松葉委員)

だから、学校図書館の充実はかなり他の市町村に比べれば誇るくらいの状態だと思います。

(会 長)

人材は、司書を置くというのは全然違って、今まで先生のお仕事の片手間でやっていると、本を選ぶのにも箱買いしていたりしていたのを、1冊ずつちゃんと選んでいらっしゃる。

(村山委員)

専門家の司書がいるということですね。

(会 長)

図書館は人材が少ないというか、足りないというか。

(村山委員)

今はチャンスだと思うのです。

(会 長)

新規登録者の開拓について、いろいろと意見が出たので、今言っている話は最後のアンケートのほうの調査とも関連してくるようなので、その前に亀田図書館の特色についてのお話をいただいて、また最後にアンケートと重ねてご意見をお願いしたいと思います。

(館 長)

いろいろご意見いただきまして、ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思っています。

続きまして、亀田図書館の特色なのですが、開館当初から申し上げていた部分もあるのですけれども、蒲原先生からもご指摘があったように、俳句の資料が特色あるということで、県内の資料センター的なこともおっしゃっていましたが、それをどうやって活用していくかというところが課題になっているかと思います。この辺で、どう活用したらいいか、ご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(会 長)

では、亀田図書館の特色について、ご意見いただければと思いますが。

(副会長)

なかなか急に出ないので、もしだったらアンケートまでやってからやると亀田の状況も分かってくるので、いかがでしょうか。

(館 長)

それでは、アンケートの説明をさせていただきます。昨年度、アンケートが多くて3つほど、職員が回答したアンケートもあるのですが、やらせていただきました。

まず、資料8「亀田図書館 利用者アンケート調査の結果をお知らせします」をご覧ください。アンケートですが、「調査について」ということで説明書きがありますように、図書館と都市政策研究所が共同で、8月に市内の図書館19館、それから東区プラザ図書室1ヶ所でアンケート調査を行いました。合計で5,400人の方々から回答をいただきました。全館のアンケート調査の結果を時間の都合でご説明できないので、アンケート結果を見ていただければと思います。亀田の結果を中心に話させていただきたいと思います。

1ページ目ですが、「図書館サービス」ということで、それぞれの図書館のサービスについて書いてありますが、ここは省かせていただきまして、次のページの「アンケート調査の回答数」ですが、亀田につきましては、267名の方から回答をいただきました。その結果、「サービスの全体の満足度について」、下側の括弧の86パーセントが91パーセントになりますので、訂正させていただきます。全体の満足度、「満足」、「やや満足」が全館では88パーセントほどになります。亀田だけになりますと91パーセントということで、全館より満足度が上がっております。これは全体のサービスです。新しくなった点等を加味して回答いただいたのかなと思っておりますので、非常に嬉しい満足度とっております。「職員の対応について」ですが、全体では95パーセントほどになります。亀田が93パーセントとほぼ同じ数字になっておりますが、職員の対応につきましても90パーセント以上満足いただいておりますので、これも嬉しい結果とっております。さらに満足度が上がるようにしたいと思います。

3ページ目「図書の種類」になりますが、全体では約70パーセントほどの結果となっておりますが、亀田につきましては、62.3パーセントということで、全体よりかなり低い数字になっております。これはやはり開館当初で蔵書数が少ない。そこに書いてありますが、棚がまだ埋まっていないという状況で、この辺でまだ不満の方がかなりいらっしゃるようです。今後、予算が3年間ついておりますので、その中で充足していきたいとっております。

次に4番「図書等の貸出数」です。図書が10冊、視聴覚資料が2点ということになっておりますが、これについて全体では90.8パーセントで満足になっておりますが、亀田がやや低く87パーセントになっております。これは、図書のほうはある程度満足いただいていると思いますが、視聴覚資料は、貸出数が多く、1回上限が2点では少ないということで、それが原因ではないかなとらえております。点数を増やすことにつきましては、全館的な問題になっておりますので、亀田1館ではなかなか改善できない点ですが、今後の利用状況の推移を見ながら検討していくことになるかと思っております。

次に5番「閲覧席や学習席の席数」についてです。全体では76パーセントほどの「満足」、「やや満足」という回答ですが、亀田につきましては、79パーセントという数字になっております。個別に見ますと学習席が足りないという要望があるのですが、全館的にはかなり低

い数字で、これは、石山や鳥屋野など、学習席がほとんどない図書館もありますので、その関係でかなり全館的に低い数字になっていると思います。それに比べればまだ約40席ほど亀田にはありますので、全館より「満足」、「やや満足」のところが多くなっていると見ております。

次に6番「図書館のホームページについて」です。全館ですと58パーセント、半分くらいの満足度になっておりまして、亀田につきましては、46パーセントほどになりますので、全館より低いわけですが、そこに書いてありますように表示などで見にくい、探しにくいという状況にありますので、平成27年のシステム更新にあわせて改善していくことになるかと思っております。

次に7番「開館日について」です。全館的に87パーセントの満足度に対しまして、同じような数字になりますが86パーセントということになっています。これにつきましては、今まで旧亀田が月曜日休館でしたが、こちらに移ってきたときに金曜日休館に変更になっておりますので、この変更が原因ではないかと考えております。全館のカレンダーとは別に当館専用のカレンダーを作ってPRしておりますので、少しずつ改善していくのではないかと考えています。

「開館時間について」ですが、開館時間の延長を求めるとの意見があります。平日、日曜日の開館時間の延長です。これが全体的には83パーセントの満足度に対しまして、亀田が78パーセント程度になっております。これもやはり、8時まで開館しているところに比べますと7時までということで、その辺の不満が出ているのかと思っております。利用状況をみますと、夜間の利用がそれほど多くありませんので、当分はこのままの時間帯になるかと考えております。

続きまして、9番「本の予約や他館からの取寄せサービスについて」です。全体的にも低いのですが66パーセントほどの満足度になっております。亀田につきましては、56パーセントほどということで、全体よりだいぶ低くなっております。これは、ベストセラーなど何カ月、半年も待たされる状況がありますので、この辺の不満がかなりあるのではないのでしょうか。なかなか亀田へ返ってこなくて、ほかの図書館にまわっている状況もありますので、満足度が低くなっているのかなと考えます。ただ、ベストセラーにつきましては、複本の数を増やせばいいのではないかとのご意見もありますが、そうしますとほかの種類の本が買えないという状況もあります。資料費が抑えられている状況の中では、今の状態が精一杯となります。しばらくこういう状態が続くと思っております。

それから、「本のリクエストサービスについて」ですが、これも全体では50パーセントと低くなっております。亀田については41パーセントでかなり低い数字になっておりますが、



これがまだまだリクエストサービスについて知らない方が多いということで、掲示、カウンターなどの説明で改善していければと思っています。

11番「調べ物の調査や相談サービスについて」なのですが、これも全体で40パーセント、亀田についても35パーセントとかなり低い状況になっていますので、PRや掲示等で改善していければと思っています。

最後6ページですが、自由回答意見ということで、亀田に関しましては、蔵書、資料数を増やしてほしい、CD、DVDを増やしてほしい。施設については、学習席を増やしてほしい。サービスについては、金曜日の休館日の不満とか開館時間を延長してほしいということまでいただいております。蔵書、資料につきましては、開館から5年間で蔵書をいっぱいにする予算が付いておりますので、この中で対応していきたいと思っています。施設につきましては、学習席が増やせない状況がありますので、公民館の空き状況等を踏まえて、図書館で部屋を借りるということで対応していきたいと思っています。サービスについては中心館が全部金曜日休館になっております。亀田だけではない問題ですので、全館的な問題としてとらえる必要があります。当分は月曜日休館のところと金曜日休館のところと分けてありますので、しばらくこういう形で続くと思っています。開館時間も先ほど説明したとおりです。

また、新潟市全体に関しても同じようなご意見があります。本を増やしてほしい、座席を増やしてほしい、時間延長などご意見をいただいております。

最後に、「亀田図書館に関すること」で、お褒めの言葉も書いてありますようにいただいております。利用が相当伸びておりまして職員一同感謝しております。そのような形で回答させていただきます。以上、利用者アンケートの結果が資料8です。

続きまして、地区図書室の4つの図書室のアンケート結果です。夏休み期間中の7月下旬から8月11日まで、開室日に合わせて利用者アンケートをとった結果です。

まず、大江山地区ですが、回答数は少ないのですが、その中の特徴的なことをお話しします。先ほど村山委員からお話がありましたが、大江山の特徴としまして、交通手段ですが、やはり場所的なことがありまして、車の利用が60パーセントで多い状況になっています。(5)ですが、他の図書館カードを持っていない方が54パーセントで半分ちょっとです。持っている方が46パーセントで半分くらいです。利用図書館ですが、石山が距離的なものかと思いますが50パーセントで半分近く、それから亀田、ほんぽーとということになっております。2のところですが年齢別の利用を見ますと、平均的な十何パーセントから二十何パーセントという、各年代の方から利用いただいております。これが大江山の特徴かと思えます。

続きまして、曾野木の利用状況です。開室日が多いせいもありますので、アンケートの配付数が多くなっております。ここの特徴ですが、交通手段では「車」、「徒歩」、「自転車」が

約3割近くということではらけている状況です。(5)他の図書館カードですが、持っていない人が6割近くです。ほんぽ一と、鳥屋野、黒埼に次いで、亀田が4番目で、なかなか曾野木の方がこちらのほうに来ていない状況が見てとれると思います。2番目の年齢別のところも、大江山と同じように各年代それぞれ利用していただいております。10パーセントから30パーセントということで、それが特徴となっていると思います。

続きまして、両川です。利用者数が少ないのでアンケートの配付数も少ないのですが、(3)番の交通手段はやはり圧倒的に「徒歩」、「自転車」で8割近くになります。車の方は比較的少ないです。他の図書館の利用状況ですが、貸出カードを持っていない方が92パーセントということで、相当カードを持っていない方が多いです。亀田が持っている方の100パーセントということが特徴かと思えます。2の年齢別ですが、状況を見ますと、60歳代の方が67パーセントということで、かなりの割合を占めている結果になっております。

続きまして、横越の図書室です。これは、開室日が多いせいもありますので多くの回答をいただいております。特徴ですが、交通手段としては「車」の方がかなり多い。いろいろなところから来ている方が多いということです。(5)の他の図書館カードを持っている方がかなり多い。ほかの図書館、図書室を利用している方が多いということが言えると思います。

(6)ですが、亀田が圧倒的に多い。ほんぽ一と、石山、東区プラザという順で続いております。年齢別の利用状況ですが、10歳代の方が43パーセントということで、かなりの割合を占めております。

最後に資料10になります。「江南区文化会館 アンケートまとめ」ということで、これは市役所の公共建築課でまとめたものという意味でご覧いただければと思います。職員の意見も入っております。利用者のアンケートをとっていますが、内部的な資料の意味合いも強いものです。そういう意味合いでご覧いただければと思います。

良い評価点ですが、「ホールは適度に段差がある」、「音楽ホールは広さも手ごろで地域に合ったホールだ」、「多目的ルームは広くて使いやすい」、「図書館は一般大衆的な書籍が多く気軽に利用できて地域にぴったり」というご意見をいただいております。

「悪い評価点」のところですが、ホールのホワイエのスペースが少ないとか、直射日光が入るところがあります。図書館に関して言えば、高いところがありますので「電球が切れた場合に職員で取り換えができない」、「直射日光が入る」等の意見があります。ほかに「死角が多い」、「おはなしの部屋の配管の音がうるさい」などがありました。おはなしの部屋の配管につきましては、この間の蔵書点検期間中に配管工事を行い、多少は改善しているということです。他にもいろいろな意見がありましたので、あとでご覧いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

以上が、アンケート3つご説明をいたしました。

(村山委員)

ちょっと悪いのですが、これは何でしょうか。

(館長)

数字ですか。それは、数字は悪い、良いの数字で、丸が付いているのは「8」というのは悪い意見があるということで、公共建築のほうで丸を付けたものです。

(村山委員)

悪い意味なのですか。

(館長)

そうですね。悪い意味合いが多いところという意味で、丸が付いています。

(村山委員)

でも、トイレは10対10ですよ。

(館長)

そうですね。意見が多いということで、トイレのいろいろな意見がかなり多かったということですね。

(会長)

では、今の事務局の説明について、ご意見があればお願いいたします。

(大橋委員)

アンケートの関係で、例えば6番とか9番、10番は、ようするに同じサービスですよ、全部。

(館長)

そうですね、全館的なサービスです。

(大橋委員)

ですよ。だから、差が出たとしてもあまり。たまたま出ただけかなと。そんなにいくらかも変わらない。

(館長)

多少違いますけれども。割合的に全館的にちょっと低いというところで。ホームページについてはそうですし、本の予約も全館的な問題で、ベストセラーは何ヶ月も待たせるという苦情をいただいております。

(大橋委員)

どこでも同じですよ。

(館長)

同じですね。

(村山委員)

どこでも同じだけれども、それを何とか改善しないと。私の意見も入っているのです。一番ベストセラーですごいやつが出版されると予約が600件くらい入るのですよ。そうすると1年半くらいかかるのです。友だちに言われるのです、図書館を待っていないで買って読めと言うのだけれども、何とか。中心図書館7図書館あるから、そこだけでもいいから、今、三浦しをんの「舟を編む」という本が400件くらい残っている。中心図書館だけでも5冊くらい用意してくれないとだめだと。

(館長)

資料費の問題があって、そういう提案をいただいているのですが難しいです。

(村山委員)

予約件数の画面を見ると、1か月ごとに出てくるのですよ、20番まで。上のトップの3つくらいが、一番上の一つだけでもいいから増やしてほしい。借りられないのですよ。

(館長)

非常に頭の痛い問題なのですけれども、今調整させていただいて、各図書館に2冊、全館で30冊という形で調整させていただいているのです。例えば、亀田で5冊買うとベストセラーが終わってしまうと4冊要らなくなってしまう可能性があります。

(村山委員)

その4冊を図書室へ回せと言っているのです。ダメだと。

今、図書室の配本の責任は中心図書館が持っているから、中心図書館で5冊借りて、ブームが減っていくのですよ、2年以降は。ずっと下がっていくのです。

(館長)

図書室も施設的に狭いのですので、どうしても2年、図書室は1年くらい経過するとほとんど残ってしまう可能性があるのです、例えば2年経過したものを持っていても、利用はそんなに増えないのではないかと踏んでいるのです。頭の痛い問題で、資料費が増えれば当然複本を購入できるのですが、頭打ちになっていますので、複本を抑えざるを得ないという状況なのです。

(会長)

ほかにご意見ありますかでしょうか。

(大橋委員)

私もやはり冊数よりも種類があるほうがいいなと思います。私も予約してみて、何十件という予約が入っていると諦めて帰りますけれども、検索で見当たらないよりはあったほうが

いいかなと思います。

(会 長)

ほかにご意見ありますでしょうか。

(村山委員)

まったく違う意見で、ちょっとしゃべっていいですか。

(会 長)

短くお願いします。

俳句の資料を先にお願ひします。

(館 長)

蒲原先生からご意見をいただかないといけないのですが、どのような形で持って行ったらいいかと。

(村山委員)

蒲原先生がだめなら、ほかの先生を頼めばいいじゃないですか。できないのですか。

(館 長)

そういう形で考えていますが。

(村山委員)

俳句がんばるんでしょ、この図書館は。蒲原先生がお歳でだめならほかの人を頼めば。

(田村委員)

塚田先生とか、そういう先生を頼んだら、それは私は頼めますけれども。

(館 長)

新年度に入りましたら、また田村さんと相談しながらやるようなことになると思います。昨年11月に蒲原先生から講演いただきましたので、今作業をしておりますがまた報告書をつくりたいと思っております。今度は亀田の中心の人たちがだいぶ入っていますので、そういう面では一つの資料になると思います。

また、この講演の中でも資料を紹介させていただいたのですが、俳句の句碑だけではなくて他の石碑もまとめました。一部展示を始めたのですが、「江南区のいしぶみ」ということで、新年度に入りましたら編集をして、冊子にできればいいと思っております。それを解説をしていただくとか、あるいは予算がないので難しいかもしれませんが俳句の句碑めぐりみたいなものができるかどうかの検討をしていければいいと思っております。

(田村委員)

こういうのを配るのですか。

(館 長)

できれば、部数をどのくらいできるか分かりませんが、300くらいできればいいと思っています。

(田村委員)

ありがたいですね、私からすれば。

(館長)

講演会のときには句碑が中心でしたが、歌碑、石碑、芭蕉の句碑がありますので、それらも含めて公共的な公園、寺院。蒲原先生は個人宅もやればいいと話をしていたんですけど、そこまではできません。

(田村委員)

個人宅といっても、3軒から4軒くらいだと思うのですが。

(館長)

何軒かご紹介いただいたのですが、木津のほうにはだいぶありますので。

(田村委員)

そうですか。私は亀田のことしか分からないので。

(館長)

句柱と言いまして、細い柱に建っているものが、7、8軒ありましたし、木津の個人宅にも俳句の碑がありますが、そこまでできません。

(会長)

先ほどの、亀田図書館の特色についてのご意見と、今回の利用者アンケート調査を一括してご意見ありませんか。村山委員お願いします。

(村山委員)

今、突然館長にしゃべっていないことをしゃべるのですけれども、遠藤さんに聞きたいのだけれども、突然で申し訳ない。亀田図書館の特徴として、俳句もあるのだけれども、俳句をここへきて初めて俳句は亀田は特色あるのだなと分かったのだけれども、その前に亀田郷の特色をずっと考えていたら、亀田土地改良区の亀田郷の干拓だと思うのだよね。その前の郷土資料館で「芦沼」のビデオを流しているけれども、あれをビデオでなくて資料として亀田図書館は昔、佐藤さんという偉い人がいたけれども、そういう資料は持っていませんか。それを教えてほしいのです。図書館で資料を持ってきて、亀田図書館と亀田土地改良区と共催して、何かできないかなと考えています。

(会長)

「まんが亀田の歴史」というのがあって、土地改良区がつくって、小学校に全校配付されています。

(村山委員)

私は、そういうのは知らないから。

(会 長)

小学生向けなのですからけれども、でも漫画になっています。

(村山委員)

新聞のものをNHKがつくったビデオは見ているのですよ、あれは本当に目で見ると分かるのだけれども、あれを亀田図書館でもあったら。

(会 長)

遠藤さんから、ご回答を。

(副会長)

今、うちの土地改良区の脇に「芦沼館」というのがありまして、そちらのほうに舟が展示されたりしていますので。

(村山委員)

ここにも若干あるよね。

(副会長)

だぶるようなところはいっぱいあるのですけれども、そういう形で展示はしてあります。館長さんに聞いてもらえば、たぶん郷土ということで、水利組合から始まって、耕地整理組合、亀田郷土地改良区という本もいろいろあると思いますので、そういうところでは特徴的な蔵書がされているものだと私は思います。大変ありがたい話です。

(村山委員)

PR、本だけ置くのではなくて、前は亀田町史がいつだったか配られたのですよ。亀田織が表紙になって、青色の本が2冊配ってきたのですよね。

(田村委員)

配られましたね。

(村山委員)

10年前くらいですかね。あの中に書いてあるのだけれども、読まないんだよね。ちょうど遠藤さんいらっしゃるから、そういうのを亀田図書館と一緒に遠藤さんのところの資料でアピールできる講座でもつくればね。難しいかもしれないけれども。

(副会長)

大変ありがたい話で、新潟日報にも載ったのですが、今回60周年を記念して、また土地改良史ということで、「水と土と農民」という本を出しました。これはもう3回目になるのですが、まだ手続きが悪くて各図書館に置くことはまだここに来ていません。

(村山委員)

土地改良区がやるのか、郷土資料館がやるのかは、私はよく分からないのだけれども、そういうのを知りたい人もいますよ。そういうのをアピールして。私は田村さんには悪いのだけれども、俳句よりもそっちのほうをやったほうがいいのではないかなとは思っていたのだけれども。ごめんなさいね。

(田村委員)

どういたしまして。

(副会長)

本当に、人の趣味はいろいろだから。

(村山委員)

趣味はいろいろだけどさ、亀田郷、江南区の特色というと、やっぱり干拓の特色だと思うのだけれどもねと思っていたのだよね。

(副会長)

ぜひ、また。

(田村委員)

並行していますものね、俳句の発祥とね。

(副会長)

農家の人がね、謳っているわけですからね。

(村山委員)

そこらあたり、遠藤さん意見がないからと思ったのだよね。

(副会長)

突然なので、これくらいにしておきます。

(会 長)

ほかにはいかがでしょうかね。

(大橋委員)

今、気が付いたのですが、文化会館の中にあるというのも一つの大きな特徴としてとらえていいのではないですか。

(館 長)

分かりました。先ほどお話し申し上げましたように、連携をとりながらPRしていく必要があると思っています。

(会 長)

それでは、たくさん意見も出されて、活発なご意見をいただきましたので、これで第2回



を終わりたいと思うのですが、ご意見よろしいでしょうか。

(村山委員)

今、館長が言いましたように、亀田図書館が開館して1年半くらい経つ。旧亀田図書館、旧役場の下の土地改良区のところにあったのだけれども、あのときから平成24年10月6日に開館したときに、4万2,000冊の蔵書だったのですよ。それが今、この資料を見ると5万7,439冊、1万5,000冊くらい増えているのです。予算を見たら、ここに書いてある予算案は今は減っています。平成24年は2,400万円くらいだった、今度は1,200万円くらい。館長は5年間で充足しようと。その充足が、私は最初に来たときに10万冊にするという話があったのだけれども、そうすると1年間で。

(館長)

2万弱ですか。

(村山委員)

入れていかないと。できるのですか。そういう予定を聞きたい。5年後に本当に10万冊くらいになるのか。

(館長)

厳しい。消費税が8パーセントになることもありますし、かなり厳しいとは思っています。目標として、5年でいっぱいにするようにという予算付けになっていますので、努力しないといけないと思います。

(村山委員)

例えば、平成26年度で6万冊、平成27年度で7万冊、平成28年度で9万冊、平成30年で10万冊とそういう目標を持っているのですか？

(館長)

一応あります。ありますが、実際はそういかない部分はたくさんありますし、当初の建設計画の中で、天井まで書架が上のほうまで入って11万冊近くになっています。実際問題、上のほうの書架は地震対策がありますので、実際は入れられないと思います。そうなりますと、やはり10万冊にはならないと踏んでいます。計画どおりにはいかないと思っております。

(村山委員)

この表のうしろに中心図書館ではなくて、比較的小規模な図書館にすると書いていますよね。アンケートかどこかに。そんな文言がありましたよね。「亀田図書館に関すること。中心図書館の中では、亀田図書館は比較的小規模な図書館ですが」と書いていますよね。

(館長)

というのは、中心館が1,200㎡とか、かなり大きいところが多いですよ。

(村山委員)

中心館だから、白根、西川、新津、豊栄はちょっと大きいけれども、だいたい10万冊なのだよ。12万冊もあるけれどもね。

(館長)

12万冊ですね。だから、中心館の中では小さい方となります。

(村山委員)

比較的中規模だから、10万冊じゃなくてもいいのか。でも、中心館だから10万冊くらい置かないとだめなのか。

(館長)

目標として、中心館の平均的なところで10万冊というのがありますので、亀田もそれに近づけようとしています。あくまでも目標ですので、実際はそうならない可能性もあります。

(村山委員)

あまり増えていないなという感じがするのです。

(館長)

努力目標で頑張りますが、実際にはいかない部分もありますので。

(村山委員)

内容もよろしく願いいたします。図書の内容です。以上です。

(会長)

意見が出そろったということで、事務局のほうへお返しします。

(館長)

2番目、協議会委員の改選についてお話申し上げたいと思います。皆さんからは、開館当初から委員を務めていただきまして、実際は1年半くらいだったのですが、この3月31日で任期が終わるということで、本当にありがとうございました。お礼を申し上げます。

4月1日からまた新しい年度になりまして、委員も替わることとなりますが、再度お願いしたいという方もいらっしゃると思いますので、よろしく願いいたします。学校の校長先生方はまた帰られて話し合いをしていただいて、またご推薦いただければと思います。また、亀田郷土地改良区と商工会議所青年部につきましても、話をさせていただいて、ご推薦いただければと思います。

以上、短い間でしたが、皆さんご協力いただきまして、ありがとうございました。お礼を申し上げます。

(会長)

皆様2年間の任期ありがとうございました。微力でしたが、会長を務めさせていただくこ

とができましたのは、皆様のおかげです。ありがとうございました。

(村山委員)

ちょっとしゃべり過ぎまして、ご迷惑かけました。

(会 長)

これで、議事を終了して、進行を事務局にお渡しいたします。

(司 会)

議長、そして委員の皆様、長時間大変お疲れ様でした。以上をもちまして、本日の図書館協議会は終了させていただきます。ありがとうございました。